



駒澤大学卒 大森立嗣監督 来校上映会

日日是好日

にちにちこれこうどつ

茶道とは無縁の僕が原作を読み終えていたく感動していました。  
ひとりの女性が大人になっていく過程で、きらびやかな宝石とは違う、  
胸の奥にずっと、でも密かにある大切なものにお茶を通して気づき、  
触れていくお話です。(大森立嗣監督)

日時 11月14日(木) 開場 11時45分 上映開始 12時15分

会場 駒澤大学 駒沢キャンパス記念講堂

入場料 入場無料(予約不要。学外の一般の方も入場可。)

プログラム 『日日是好日』 上映会 12時15分〜13時55分

大森監督とのトークセッション 14時00分〜14時30分

主催 駒澤大学 禅ブランディング事業

後援 世田谷区教育委員会



大森立嗣監督 プロフィール  
1970年東京都出身。駒澤大学文学部社会学科卒業。  
在学中8ミリ同好会で、自主映画の制作を開始。  
卒業後、俳優、助監督を経て、2005年『ゲルマニウムの夜』初監督としてデビュー。  
10年『ケンタとジュンとカヨちゃんの国』が第60回ベルリン国際映画フェスティ  
ム部門の正式招待作品となり、日本映画監督協会新人賞受賞。  
13年、『さよなら深谷』で第35回モスクワ国際映画祭審査員特別賞を受賞。  
同作と『ぼっちゃん』(2014)で第56回ブルーリボン賞監督賞を受賞。  
その後、『まぼろ駅前狂騒曲』(2014)、『セトウツミ』(2016)、『光』  
(2017)、『日日是好日』(2018)、『母を亡くした時、僕は遺骨を食べたいと  
思った』(2019)、次々と話題作を発表し日本映画界を牽引。  
現在、オリジナル脚本作品『タロウのバカ』を全国の劇場で公開中。